服育プロジェクトー持続可能なファッション×手工芸を広めるー

大網　美代子　教授
（家政学部　被服学科）

１　プロジェクトの目的

私たちの生活は物質的には豊かで便利になりましたが、一方では地球環境の悪化をもたらしています。産業界の中でもアパレル業界では、大量生産と大量廃棄による膨大な廃棄を生み環境への深刻な負荷を与えていることが指摘されており、持続可能なシステムへの転換が求められています。また、手工芸品のように地域に伝承される文化や伝統を支える貴重な技術により、手作業で丁寧に作りあげられたものは品質が高く長い間使い続けることができますが、伝承者は減少傾向にあります。

服飾造形の分野では、持続可能なファッションとしてひとつの製品を長く着用できるデザイン設計やアップサイクル（捨てられるはずだったものに新しい価値を与えて生まれ変わらせる）などの活用を通してシステムを構築することが課題であると考えます。大網ゼミでは課題解決の視点を持ち、学生たちが主体的に企画・デザイン制作からプレゼンテーションまで総合的に実践しています。2022年度からは「よりよい未来のために服が力になれること」をテーマに、チームでSDGsやジェンダーなどを視点に取り組んでいます。本プロジェクトは、3 ゼミの学生とともに「持続可能なファッション・アップサイクル」をテーマに制作を行い、長く着用できる服や手工芸の手法を広めることを通して、次の世代を担う学生や子どもたちが持続可能な社会に貢献できるよう育成することが目的です。

２　取り組み内容

１）本学文化祭におけるプレゼンから　　作品・ポスター展示　2025年10月18日（土）19日（日）

「持続可能なファッション・アップサイクル」をテーマに、「着る」から「運ぶ」へ transform －長く使う服ー、1着∞通り －2way, 3wayの可能性ー、Maternity wear －妊婦さんと女子大生の服の共有ーの 3 つのチームに分かれて取り組んだ作品、手工芸の手法である「スモッキング」の作品を、文化祭にて発表を行いました。また、「あまり布を使用した小物製作」のワークショップも実施し、多くの方に参加をしてもらいました。

近年、若い世代に手工芸やハンドメイドのブームが広がっていることもあり、持続可能なファッションへの関心やアップサイクルを身近に感じてもらうきっかけになったと思います。（アンケート調査実施：回答数152件）



「着る」から「運ぶ」へ transform





「スモッキング」作品・「あまり布を使用したワークショップ」

２)本学さくら祭りにおけるプレゼンから　作品展示･ファッションショー　2026 年 3 月 15 日(日)

２）－１　「持続可能なファッション・アップサイクル」

文化祭での作品に加えて、アップサイクルをテーマに、着なくなった服やペットボトル、余り布から新たなデザインとアイデアで編み物、裂き編み、パッチワークなど手工芸の手法を使用して価値あるものに生まれ変わらせました。また、特別展示として、持続可能に関連する卒業研究の作品展示も行い、多くの方に見ていただきました。（アンケート調査実施：回答数 53 件）



アップサイクルの作品



特別展示　卒業研究　持続可能なファッション

２）－２　キッズパフォーマンス集団「ほしかぜ」の舞台衣装の制作

キッズパフォーマンス集団「ほしかぜ」さんとの交流を通して、子どもたちの舞台衣装を制作することになりました。6 月、10 月と打ち合わせを行い、配役決定後にデザイン・素材の打合せを行い、アップサイクルの視点で、カーテン生地をベースとした忍者衣装の制作を行いました。衣装を身につけた子どもたちもファッションショーに参加しました。2026 年 9 月の本公演に向けて、衣装は動きやすさや舞台の効果を検証していきます。



忍者衣装のデザインの打合せ



試着・補正の様子



衣装の展示

３　プロジェクトの成果と今後に向けて

以上の取り組みを通して、服からバッグへ変化させるなど様々な工夫が見られ、新たな「長く着用できる服」を形にしたこと。アップサイクルにおいても手工芸のテクニックを使用して、新たな価値あるものをつくり出したこと。また、コミュニケーション・プレゼンテーション能力、汎用的能力を身につけることができたと思います。ワークショップでは、取り組みを広めると共に体験を通して、アップサイクルなどの意識を持つきっかけになったと思います。舞台衣装の制作では、子どもたちと共にデザインや素材を検討し、試着・補正を進める中で、多くの学びがありました。

今後も服育を通して、次の世代を担う学生たちや子どもたちが持続可能な社会に貢献でるようなプロジェクトに育てていきたいと思います。



オープニングファッションショー